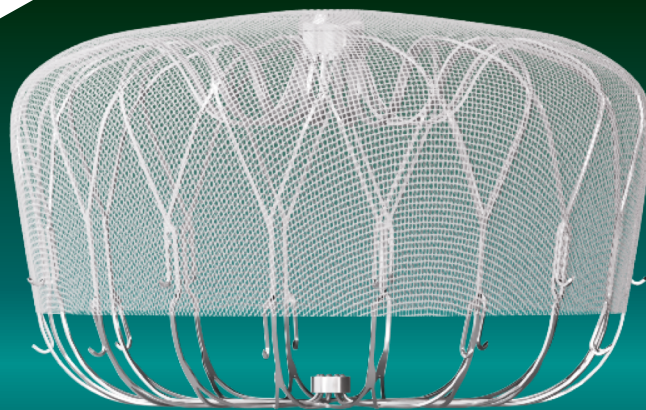


2021年5月開始



WATCHMAN

脳卒中予防×低侵襲カテーテル治療

心房細動とは、心房が小刻みで不規則な拍動をする不整脈です。

心房細動になると血液が心房の中でよどみ、血のかたまり（血栓）ができてしまうことがあります。

この血栓が心臓から送り出され、脳の血管に到達してしまうと脳梗塞を発症します。

そのため、心房細動の患者さんは抗凝固薬を服用する事が推奨されています。

しかし、消化管出血や脳出血などのリスクが高く抗凝固薬を長期間服用できない患者さんもいます。

WATCHMANは、そのような患者さんのための脳卒中リスクに対する代替療法です。

1

低侵襲

外科的な手術のように胸を切開する必要がなく、負担を少なくすることが可能です。入院期間は最短3泊4日です。翌日から歩行可能です。

2

抗凝固薬の中止が可能

術後45日で96%以上の患者さんが抗凝固薬の中止に成功しています。

3

脳卒中リスク低減

血栓形成の90%以上は心臓の左心耳でおこり、そこを閉鎖することで抗凝固薬の内服なしに脳卒中を予防します。

1.経皮的アプローチでガイドワイヤを右大腿静脈に挿入します。

2.経心房中隔穿刺システムを用いて心房中隔を通過します。

3.左心耳にピッグカテーテルにてアクセスシースを挿入します。

4.WATCHMANを左心耳に留置します。

5.留置から45日ほどで左心耳が塞ぎ、抗凝固薬が中止できます。



©2022 Boston Scientific Corporation. All rights reserved.